

図書館へ行こう

本は、市内の図書館・図書室でも貸出・返却できます。

おすすめの
新刊

『マチルダとふたりのパパ』

著/メル・エリオット
出版社/岩崎書店

パールとマチルダは大の仲良し。そしてそっくりなところもたくさん。そんなマチルダには、ふたりのお父さんが！パールは、家族のかたちは様々だけれど、大切なことは同じだと気付いて…。



『うまい！「おかか」ごはん』

著/にんべん
出版社/講談社

ご飯にかけてり、野菜や肉のおかずと合わせたり。はたま、だしやおつまみとして使ってみたり。かつお節を知り尽くした「にんべん」の社員が食べている、手軽でおいしいレシピを紹介！



『富士山パーフェクトガイド』

出版社/JTBパブリッシング

富士登山4大ルートを詳細にガイドするほか、富士山周辺トレッキング、富士を眺める山歩きなど…様々な形で富士山を楽しめるガイド本！初心者への富士登山 基礎知識も紹介しています。



『尼子姫十勇士』

著/諸田 玲子
出版社/毎日新聞出版

毛利に滅ぼされた尼子一族。神の化身・八咫鳥(やたがらす)の囁きに導かれ、尼子氏残党が唯一の末裔であるスセリ姫のもとに結集する。強大な毛利軍に戦いを挑んでいく、歴史ファンタジー。



『あめだま』

作/ベク ヒナ
訳/長谷川 義史
出版社/ブロンズ新社

ひとりで遊ぶドンドン、ある日駄菓子屋でビー玉みたいな色とりどりの「あめだま」を手に入れる。口にいれんと、突然、だれかの心の声が聞こえてきた。声の主はいったいだれ？『第24回日本絵本賞読者賞・日本絵本賞翻訳絵本賞』作品。



『妖怪一家九十九さん 妖怪一家のウエディング大作戦』

作/富安 陽子
出版社/理論社

タヌキのカップルが、「訳あって、人間流の華やかな結婚式とパーティをしなければならなくなった」と市役所につとめるパパを訪ねてきた。若い2匹のために妖怪一家が大奮闘するユーモアでホラーなお話。



図書館のイベント情報

会場	主なイベント	開催時間
平戸図書館	おはなし会 (おはなしのへや)	毎週日曜 午後2時～
	赤ちゃんおはなし会 (おはなしのへや)	12日(水)・26日(水) 午前10時30分～
	「みんなdeシネマ」(COLAS平戸ホール) NORIN TEN「農の神」と呼ばれた男 稲塚権次郎物語(邦画:110分)	8日(土)・27日(木) 午後2時～
	ライブラリーコンサート(平戸図書館) 今月は、宮古民謡研究会「みゃーく」さんによる島唄ライブ(三線)です。沖縄民謡やBEGINの曲などを披露します。(予定)	29日(土) 午後7時～
永田記念図書館	おはなし会(ふれあいセンターゆめホール)	1日(土) 午前10時～
	おはなし会(永田記念図書館)	8・15・22・29日(土) 午後2時～

今日の休館日 永田記念図書館：4日(火)、11日(火)、18日(火)、25日(火)、30日(日)

各図書館・図書室連絡先

平戸図書館	☎22-4017
永田記念図書館	☎28-0128
南部公民館図書室	☎27-0047
生月図書室	☎53-2111
田平町中央公民館図書室	☎57-0207
大島村公民館図書室	☎55-2511

図書館ホームページ

http://www.hirado-lib.jp
携帯電話からQRコードを読み込んで簡単にアクセスできます。



各地域の食生活改善推進員が紹介します！ 27

今月のレシピ

問 健康ほけん課健康づくり班 ☎内線2546

『季節の野菜スープ』

【材料(4人分)】

キャベツ	80g	水	600g
玉ねぎ	50g	コンソメ(顆粒)・大さじ1	
じゃがいも	100g	塩	ひとつまみ
人参	60g	黒コショウ	少々
ウインナー	2本		

【作り方】

- 玉ねぎは5mm幅に、人参は薄切りに、じゃがいも・キャベツは一口大に切っておきます。
- ウインナーは5mm幅の斜め切りにします。
- 鍋に水を入れて中火にかけ、1と2を入れ、柔らかくなったならコンソメ・塩・黒コショウで味を調えます。

【栄養(1人分)】

エネルギー 59kcal たんぱく質 1.9g 脂質 2.3g 塩分 1.0g



毎日の食事に野菜を！

野菜はビタミン、食物繊維をはじめ、健康に欠かせない栄養素を豊富に含んでいます。野菜は1日あたり350g以上取ることを推奨されています。旬の野菜をたっぷり入れて、野菜の摂取を心がけましょう。



中部地区 むつば会
いでぐち とめこ
出口 とめ子さん

毎月19日は「食育の日」です！

「古写真」から見る平戸の記憶遺産 vol.3

問 文化交流課文化遺産班 ☎内線2277

「大島村神浦地区の町並み」

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている大島村の神浦地区は、1500年代末期から1600年代前半にかけて成立した漁村が、江戸時代に鯨組の創業と廃業を経て、近代の港町に変容していった過程を見ることができます。

また、湾沿いに曲折する町通りと有機的な地割り、これに対応した建築類型が成立し、江戸中期から明治・大正期にかけて時代ごとの特質を示す平入り町家が建ち並ぶ町並みが形成されました。町並みが周囲を取り巻く高台の寺社や山、海と一体となって、伝統的な港町の空間と景観を色濃く伝えています。

昭和28年ごろの写真と比べると、町並みには大きな変化はないものの、海岸沿いには新たな道路や橋が作られています。また、町の周辺にあった棚田の風景は変化しています。



昭和28年頃の風景



現在の風景